資料彼報

第 35 号

編　集　平成 27 年 3 月 31 日

発　行　高森町歴史民俗資料館
長野県下伊那郡高森町
下市田 2243
電話（0265）35-7083

印　刷　㈲　雨　宮　印　刷
電話（0265）22-6027

高森町歴史民俗資料館「時の駅」

富本銭（県宝）

目　次

○あいさつ …… 2
○平成 26 年度事業報告 …… 3
○資料館委員会等の活動記録 …… 4
○「時の駅」講座 …… 5〜6
○特別講演会「児童文学者 宮下正美」…… 6
○平成 26 年度企画・特別展
●五月人形・東京木目込み人形展 …… 7
●高森の学校教育展 …… 7
●ミニ平和展 …… 8
●北原龍太郎遺作展 …… 8
●郷土の作家展 …… 9
●ひな人形・美人画展 …… 10
●町民ギャラリーの展示等 …… 10
○親子体験教室 …… 11
○研究調査報告　「ごりごりに候」とまで言わしめた高森の学校統合問題 …… 12〜14
○学校教育との連携 …… 14
○平成 26 年度の記録 …… 15〜16
○平成 26 年度資料寄贈者 …… 16
○編集後記 …… 16

◉ごあいさつ

高森町長　熊　谷　元　尋

昨年、高森町で県の町村会総務文教部会の会議が行われました。その際、会議終了後に町内視察があり資料館を見学していただきました。町村長の中には、初めて高森町を訪れたという方もいらっしゃいました。そして参加された皆さんから「高森町は歴史がある町ですね。すばらしい資料館ですね」と言っていただき、とても嬉しくなりました。

私は、高森町に資料館があって当たり前、展示されている収蔵品もあって当然と感じていましたが、どうもそうではなかったようです。他の町村の中には、資料館が無い所もあり、当町のように収蔵品も揃っていない町村もたくさんあるようです。他の町村長といっしょに見学することで、旧館や新館で展示されている収蔵品はどれも一級品だということに気づかされました。

時々、町民の方から「資料館ってこんなすばらしかったんだ」といった声を聴くことがあります。町民の皆さんの中には資料館に行ったことがないという方もいらっしゃると思います。どうか一度足を運び見学して下さい。きっと新たな発見があるはずです。

これからも、資料館が生涯学習の拠点として、多くの方々に立ち寄ってもらうことができるような資料館になることを期待いたします。

資料館運営委員長　松　島　悦　男

本年度は異常気象の大雪・大雨に続き御嶽山噴火、白馬・小谷村地震の大災害、更に中東での人質事件等が発生し、今後に多くの課題が残された年でした。

時の駅では特別展や講座、各種主催行事に皆様の多大なご支援を頂き感謝する次第です。講座①では吉田耕文小校について宮原氏が光専寺の教育への情熱とご尽力が今の教育の基になっていることの史実を明らかにしたお話。講座②で終戦のあの悲惨な体験を涙ながらに語られた田戸氏。戦後 70 年の節目に戦争の責任の重さを痛感させられたお話。講座③は、悲劇の木曽馬について北村氏は「優秀な木曽馬を絶滅に追いやったのは人間の身勝手」と具体的な史実を基に訴えられたお話。どのお話にも現在の我々の生活に考え深く反省させられ、また日頃は気付かない諸問題に着目し、学び深めることの大切さを教えていただきました。

近頃、「少子化・人口減」「地方の創生」が重要課題となってきました。当館では、蚕の飼育・製糸・富本銭づくり・匂玉づくり、縄文絵拓本、小正月飾り、餅つき等の実体験する教室等実施しました。最近は日本古来の伝統・文化、更に「和食」まで世界の注目を集める時代です。良き伝統を掘り起こし学び合い、創造性を培い、町の内外に活発に発信できる人材の育成こそ急務ではないかと思います。

前高森町歴史民俗資料館長　近　藤　昭　弘

平成 26 年3月 31 日付をもちまして、資料館長の職を退任いたしました。平成 18 年度から5年間は主事、その後の3年間は館長として勤務させていただきました。町の歴史や文化財等について殆んど知識がなかった私でしたが、町当局の皆様や町民の皆様方から心温まるご指導ご鞭撻を賜り、何とかその任を全うすることができました。心より感謝いたしますと共に、厚く御礼申し上げます。

新館「時の駅」には、全国に誇れる日本最古の鋳造貨幣「富本銭」や、本学神社に関する国学の資料等の展示が、旧館には手書きの説明書が添えられた民俗資料が展示してあります。毎年、県外や近隣市町村から多くの方が見学に訪れますが、帰り際に「素晴らしい資料館ですね」という感想を多くの方から頂き、嬉しく思うと共に大きな励みになりました。また、企画展や「時の駅」講座等の実施に当たって、多くの方々にご指導頂き、町の歴史や文化について改めて学ぶことができました。

資料館が生涯学習の場、ふるさと学習の場として、より多くの方々に親しまれ、益々発展されます事を祈念しまして、退任の挨拶といたします。

平成 26 年度 事業報告

館長　松 上 清 志

高森町歴史民俗資料館が設立されてから 35 年が過ぎました。本年度も、町内外の多くの方々に見学していただいたり、施設をご利用いただきました。町民の皆様の温かいご支援、ご指導に心から感謝申上げ、平成 26 年度の事業報告をさせていただきます。

［1］企画・特別展

①五月人形と武具展・東京木目込み人形展（千鶴萠会）（５月）〈814 名〉
②特別展「高森の学校教育」（７月～８月３日）〈973 名〉
③特別展「ミニ平和展」（8 月 19 日～９月 30 日）871 名〉
④特別展「北原龍太郎遺作展」（９月２日～９月 30 日）〈563 名〉
⑤特別展「郷土の作家展」（11 月）〈666 名〉
⑥雛人形と美人画展（３月）〈683 名〉
◯三校児童・生徒作品展　　◯小正月飾り作り体験教室（1 月 10 日）〈37 名〉
◯夏休み親子体験教室　第一講座「富本銭づくり」　第二講座「まゆから生糸を」　第三講座「勾玉作り」　第四講座「土器の絵や拓本」を８月２，３日に初めて行う。合計 90 名参加
◯ロビーで「宮下正美展」を「郷土の作家展」に含めて行い、その期間中の 11 月 22 日㈯に山田博章氏の「宮下正美先生の功績を尋ねて」の講演会も行った。＜84 名参加＞
◯「上市田いろはカルタ原画展」「市田柿写真展」「高森町の柿の実物展示」をロビーで行った。

［2］「時の駅」講座（15 年次）

①第１講座　７月５日（土）「耕文小校の興りと変遷」　宮原 祐敬氏　34 名
②第２講座　９月６日（土）「終戦の年のあの日、あの頃」　田戸 純市氏　47 名
③第３講座　10月18日（土）「悲劇の木曽馬 2000 年の足跡」　北村 重信氏　32 名

［3］古文書研究会

・竹内昭一先生を講師に毎月第２木曜日に実施（うち１回は館外；遠山谷での研修）
・２月は、山内尚巳先生に講師を依頼して特別研究会を実施し、町内外から 43 名が参加。

［4］委員会の活動

①　運営委員会　資料館の運営について協議。３回開催（外に小正月飾り作り体験教室で臨時に１回開催）
②　調査委員会　本年度から「高森町の年中行事」を調査することになり、特に行事内容、行事食、その意味するものなどについて調べた。以前の調査も参考にして。５回開催

［5］委員・職員研修視察

・10 月１、２日　京都市にある荷田春満、松尾多勢子関連の地を訪ねて研修した。

［6］学社連携事業

①　資料館と学校が連携して授業を実施　　高森南小３～６年（19 学級）、 高森北小３、4 年（２学級）、高森中１年（４学級）、町外の３小学校（４学級）
②　高森南・北小の５年生が、資料館の足踏脱穀機、千歯扱、唐箕を使って脱穀作業を体験
③　農業体験ホームステイで来町した県外の中学生が見学のため来館（５グループ）
・町内の小・中学校の子どもたちが社会科や総合学習等で資料館を積極的に活用し、土器に触れたり、古い生活用具を動かしたりできる体験コーナーは好評であった。また、松岡城跡や武陵地 1 号古墳、惣兵衛堤防等の史跡での現地学習の支援も行った。

［7］入館者数

平成 26 年度の入館者数は 7,127 名（昭和 54 年の開館からは 207,401 名）
・保育園や高森町教職員、ツクイのミニデイサービス、牛牧老人クラブ、下市田史談会、長野県町村会総務文教委員会、中学校の同年会等、町内外の多くの方に展示を見学していただいた。また、高森町史学会、下市田一区自治会、柿の里短歌フォーラム、松岡城址愛護会、スポ少南野球等の団体に施設をご利用いただいた。

［8］その他

・本年も、天理教高森支部や高森南小ボランティア委員会の皆さんが奉仕作業を実施してくださり、外回りの環境が整備され感謝しております。

資料館　委員会等の記録

1．運営委員会

〈　委　員　〉

松島　悦男　　本島　恭則
鈴木　大和　　林　マリ子
下沢　　貢

〔運営委員会の主な活動〕

４月　第１回委員会
本年度の運営についての協議
・企画展、特別展「時の駅」講座の内容確認
・学社連携事業の促進

８月　夏休み親子体験教室への協力

４月の運営委員会

９月　第２回委員会
本年度の事業の見返しと来年度の運営について
・小正月飾り作り体験教室について

１月　第３回委員会
小正月飾り作り教室への協力

３月　第４回委員会
本年度の事業報告と来年度の方向

2．調査委員会

〈　委　員　〉

（山　吹）　塩澤　　孝、橋都　洋治
（吉　田）　中塚　　悟、中塚　美弘
（下市田）　片桐　　猛、唐木　孝治
　　中村　忠敬
（上市田）　下平　清志
（牛　牧）　加藤　　清
（大島山）　本島　義文
（出　原）　畑中　定喜

〔調査委員会の主な活動〕

○調査委員会　（年５回）

「高森町の年中行事」についての調査活動
・各地区の１月から９月までの年中行事について、昭和59年、60年度の調査のまとめをもとに聞き取り調査等を行ってきた。
・委員会の度に結果を発表・検討してきており、報告書としてまとめていく方向を確認した。

3．古文書研究会

〈　組　織　〉

・会　長　小林　正人（牛　牧）
・副会長　寺沢　ゆき（山　吹）
・会　計　手塚　勝昭（吉　田）
・監　事　北澤善二郎（下市田）
・講　師　竹内　昭一（下市田）
・顧　問　林　　藤人（牛　牧）
　　福島　壽子（下市田）
　　原　　次郎（下市田）
・幹　事　松上　清志、岡田　茂信
・会　員　29 名（うち９名は町外の会員）

竹内講師の古文書解読

〔活　動〕

○定例会　（毎月第２木曜日）

関川家文書をはじめ郷土の古文書の解読を通しての研究研鑽の他に、館外研修（飯田市南信濃）を実施した。

○特別研究会

山内尚巳先生を特別講師にお迎えして、伊那街道上市田宿の幕末期様相を古文書を通して探る研究会を実施した。

充実の「時の駅」講座

本年度で 15 回目を迎えた「時の駅」講座ですが、本年度も三つの講座を行うことができました。第１講座は『耕文小校の興りと変遷』（宮原祐敬氏）、第２講座は『終戦の年のあの日、あの頃』（田戸純市氏）、そして第３講座が『悲劇の木曽馬、二千年の足跡』（北村重信氏）と、大変貴重なお話を伺うことができ、得るものが多い充実した講座になりました。

第1講座『耕文小校の興りと変遷』

７月５日(土)　34 名受講
講師：光専寺住職
宮原　祐敬　氏

高森南小学校の前身の一つ、光専寺に開設された耕文小校の歴史を振り返り、その時々の学校教育の様子や教育方針、児童生徒の様子、校舎の変遷等を貴重な史資料や写真を提示される中でお話しいただきました。特別展「高森の学校教育」ともかかわった講座であり、寺子屋時代からの学校教育とその在り方について大いに学ぶことができた講座でした。

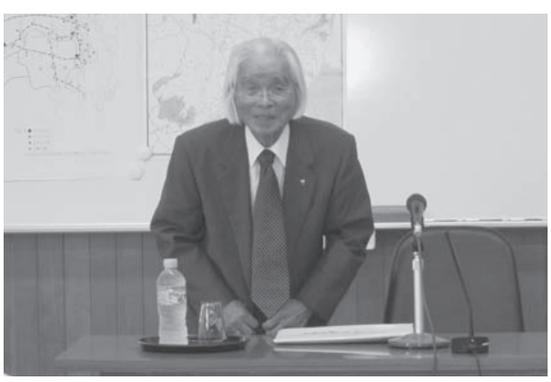
耕文小校について語る宮原祐敬氏

開校式の挨拶　松島運営委員長

第2講座『終戦の日のあの日、あの頃』

９月６日(土)　48 名受講
講師：下市田史談会　会員
田戸　純市　氏

満蒙開拓青少年義勇軍で満州の西海浪へ渡り、そこで召集されて終戦。そして死と隣り合わせの、今では想像もつかない恐ろしい厳しく悲惨な逃避行とシベリヤ抑留。ご自身の体験をもとに貴重なお話しをしていただきました。戦後 70 年になろうとする今だからこそ忘れてはならない、語り継がねばならないという田戸氏の思いをしっかりと受け止め、ロビーの「ミニ平和展」ともかかわって、改めて平和の尊さについて考えさせられた講座でした。



自身の戦争体験を語る田戸純市氏

第２講座の様子

第3講座『悲劇の木曽馬二千年の足跡』

10 月 18 日(土)　32 名受講
講師：高森町史学会 会長
北村 重信 氏

新聞記者として追い続けた木曽馬「第三春山号」との出会いをベースに、木曽馬の起源、木曽馬の特徴、木曽義仲と木曽馬、歴史上の木曽馬、木曽馬の改良や戦争とのかかわり、そして最後の純血木曽馬「第三春山号」についてお話をいただきました。人間の身勝手な考え方により絶滅の道を歩んでしまった木曽馬ですが、そのことをこれからの人間の生き方、考え方への警鐘ととらえ、足元を見つめなければならないと痛切に考えさせられた講座でした。

木曽馬と人との関わりを語る北村重信氏

聴講する皆さん

特別講演会
「わが町が生んだ児童文学者・教育者 宮下正美先生の功績を尋ねて」

特別展「郷土の作品展」に合わせ、『山をゆく歌』『消えた馬』『ふうちんと山犬』の三部作で知られる児童文学者宮下正美について、語り継ぐ会の山田博章氏の講演会を行いました。(84 名参加）

宮下正美の生い立ち、人との出会い、教育者・児童文学者としての活躍、生き方と信念などについてお話しいただき、有意義な講演会となりました。なお、宮下正美の三部作は復刻され大きな反響を呼んでいます。

宮下正美先生を語る山田博章氏

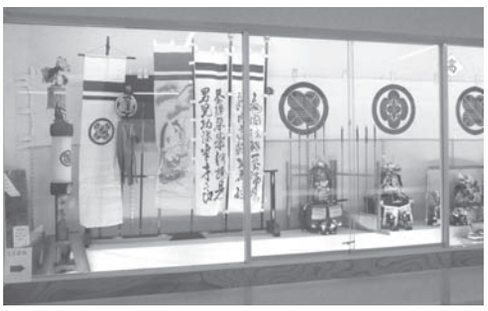
宮下正美先生の作品

平成26年度 企画・特別展

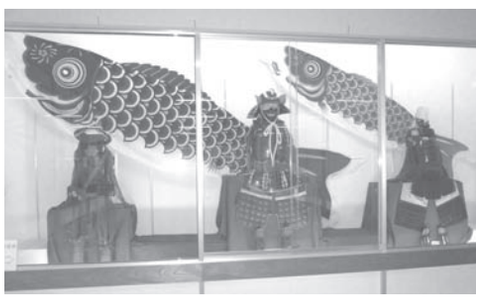
企画展 五月人形と武具店・東京木目込み人形展

5月1日～6月12日　入館者　814名

節句に合わせて、本年度も各種の五月人形や座敷幟飾り、甲冑等の展示を行いました。また、師範会千鶴萠会の皆さんの「端午の節句に寄せて～男子の群像～」と題した創作木目込み人形展も同時に行い、多くの皆さんに鑑賞していただきました。



座敷幟など



武具展

創作　木目込み人形

木目込み人形～男子の群像～

特別展

「高森の学校教育」

7月1日～8月3日
入館者　973名

下市田学校、吉田学校、牛牧学校等、明治6年の学制発布により各地に誕生した学校の変遷を、学校の写真子どもの写真、教科書や教具等を使って展示しました。展示期間中の「時の駅」講座では「耕文小校の興りと変遷」と題しての講演もあり、充実した展示となりました。

学校の移り変わりをパネルで

南小3年生も見学に

見学される牛牧老人クラブの皆さん

学校成立の様子

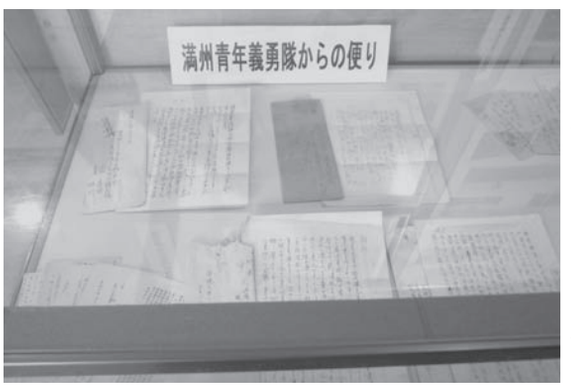
ミニ平和展　高森町の満州移民

８月19日～９月30日
入館者　666名

ミニ平和展は、「高森町の満州移民」と題して、満蒙開拓青少年義勇軍、松島自由移民、そして国策による移民という三つの視点から写真や年表、軍事郵便などを使った展示を行いました。「時の駅」講座と併せて、平和を考える良い機会となりました。

小学生も見つめる平和展

満州移民の様子を伝える



軍事郵便　満州青年義勇隊からの便り

特別展「北原龍太郎遺作展」

9月2日～9月30日
入館者　563名

「飛鳥富本夢幻下図」や「青葉の笛夢幻習作」「ハーモニックロードの詩（書）」など故北原龍太郎画伯の遺作をご寄贈いただいたのを記念して、それらを中心とした遺作展を開催しました。高森を愛した画伯が偲ばれる特別展となり、多くの方に見ていただくことができました。

飛鳥富本夢幻の下図

画伯の奥様とともに見学

青葉の笛夢幻（未完）の習作

特別展「郷土の作家展」

11月1日～11月30日
入館者　666名

棚田泰生、清水対岳坊、林龍峡という郷土が生んだ画家、書家の作品を一堂に集め特別展を行いました。今回は学校や役場、資料館等、公共の場で保管している作品に限りましたが、充実した内容となりました。また、ロビーでは児童文学者宮下正美氏の作品やその背景、人となりがわかる展示も行い、多くの皆さんに鑑賞していただきました。

林龍峡氏の作品(1)

清水対岳坊氏の作品

林龍峡氏の作品(2)

棚田泰生氏の作品

特別展を見学される古文書研究会の皆さん

講演会の後、見学される皆さん

宮下正美氏愛用のイスが迎える

物語に登場する鬼面山の表情

企画展　ひな人形と美人画展

3月1日～3月31日　入館者　683名

資料館で保管している雛人形寄贈品の中から、変遷の様子がわかる各種の貴重な雛人形とともに、公民館美人画教室の皆さんの作品を展示しました。桃の節句らしく華やかな展示となりました。

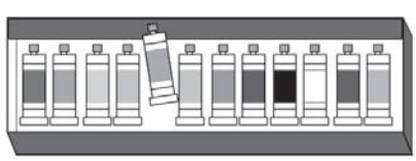
保育園児も見学に

御殿びな

天保時代内裏びな

美人画教室の皆さんの作品

町民ギャラリーの展示



ロビーの一角にある「町民ギャラリー」では、上市田いろはカルタの原画展、市田柿「柿すだれ部会」の皆様の写真展を行いました。また、満蒙開拓団にかかわったミニ平和展、町内小中学校児童生徒の皆さんの作品展、資料館で調査した郡展出品一研究作品展なども行いました。

市田柿の日

南小の皆さん

北小の皆さん

夏休み親子体験教室
小正月飾り作り体験教室

参加者：９０人（夏休み）
３７人（小正月）

８月２日・３日には、「富本銭づくり」「勾玉作り」「縄文土器の絵と拓本」「まゆから糸をとる」という体験教室を、そして1月 10 日には「小正月飾り作り」の体験教室をおこないました。

◆初めて行った高森町の古代を体験する富本銭レプリカ作りや勾玉作り、縄文土器の絵や拓本とり、そして繭から糸をとる座繰体験は好評で、多くの皆さんに体験してもらうことができました。

富本銭を鋳型からはずす

慎重に糸をとる

親子で勾玉づくり

◆小正月飾り作りは、運営委員の皆さんのご協力で、「餅つき」もおこないました。つきあがったお餅を食べた後、農作を願ってまゆ玉・餅花を飾り付けました。

飾り終えた餅花は、資料館に立ち寄った小学生に持ち帰ってもらいました。

大きな杵でお餅つき

餅花を飾る子どもたち

完成した小正月飾り

研究調査報告

「もうこりごりに候」とまで言わせた学校統合問題－特別展「高森の学校教育」より

館長　松上　清志

１、はじめに

平成 26 年 7 月に特別展「高森の学校教育」を行った。この展示では、高森の学校教育の歩みを残されている文書や写真、教科書などの学習用具などで振り返るとともに、統合問題に示された当時の人々の思いを垣間見ることによって、現在の教育の課題に迫ろうと考えたものであった。この報告では、市田小学校、山吹小学校、高森中学校という３つの学校の統合問題にしぼって、残された資料からその経過と当時の人々の思いに迫ってみたい。

２、市田村での統合校舎の建設

大正時代に入っての市田村には、下市田と吉田と牛牧に３つの学校があった。大正４年１月 22 日、下伊那郡役所が郡長名をもって学校の統合を諮問した。市田村はそれを受け入れて大正４年３月、学校を名目統合した。しかし、校舎の建設位置をめぐって各地区の意見は一致せず、校舎新築は遅々として進まなかった。

昭和２年県の指定によってようやく校地選定がなされようとした時、県から校地拡張の諮問が出され、再び紛糾し、敷地指定問題は保留されることになった。しかし、生徒増などで校舎は狭隘を極め、いつまでも放置しておくわけにはいかなかった。昭和４年の村会議員選挙が実施されたことが契機となって学校問題は再燃した。昭和５年 11 月の村会の議決によって、牛牧、出原の強い反対があったにも関わらず、唐沢原に校地を決定した。

市田村の理事者の必死の説得にも関わらず「通学距離が長すぎる。立派な部校の校舎があるのに莫大な費用をかける必要がない。原っぱの中の一軒家の学校には反対だ」などの理由で牛牧、出原地区の統合反対の声は強まるばかりで、最後の手段として、児童の同盟休校という実力行使を決めてしまった。

そこで、学校の職員は、二人ずつ組を作って全家庭を訪問し、一斉休校の中止を説得して回った。その間の事情は、次に掲げる「昭和５年度牛牧部日誌」や「昭和５年度校長日誌」に詳しい。

十二月十六日　火　晴
一、今朝始業前　牛牧前区長原氏ヨリ電話ニテ話アリ　曰ク
昨日校長ト会見後一同区公会堂へ参集　校長ノ会見ノ結果了解出来ズ　為メニ全区児童ヲ同盟休校致スコトニ協議一決セリ　故ニ牛牧部長ニモ其結果迷惑ヲ及ボス事ニモナルニ一応通知シ置ク。　（中略）
十二月十七日　水　晴
一、午后一時半ヨリ当部ニ職員会
協議ノ結果全職員十七組ニ手分シテ牛牧区児童ノ家庭ヲ訪問十九日ヨリ一斉休校ノ由ナレトモ出席スル様父兄ニ依頼ス
十二月十八日　木　晴
一、本日午前十一時　坂井校長代理、福田部長、牛牧区公会堂ニ行キ、牛牧区委員（五十名位）ト会見、
結果　盟休ハ中止ス、然シ校長ニ対シ了解出来ザル時ハ、再ビ盟休モ為スコトアルベシ。（昭和五年度牛牧部日誌）

（昭和六年）
二月二十一日　土　晴
此ノ朝　出原区代表大沢□□氏外三名来宅、統一校地調停案ニ不賛成ノ区民多数ニテ或ハ児童ノ登校モ阻止スルニ至ルヤモ計ラレズトノコト、懇々児童欠席ノ不可ヲ説キ反省ヲ促ス直チニ三部長及吉田部職員ヲシテ委員及児童ノ家庭訪問ヲナサシメ、児童欠席ノ不可ナル所以ヲ説ク。
二月二十二日　日　雪
午後二時　宮脇、今村両氏、出原代表トシテ吉田部へ来校盟休ヲ考ヘタコトハ実ニ申訳ケナシ、区民一同反省シ、其事止メリ何卒寛大ノ処置願ヒタシ
其ノ不心得ヲ説クト共ニ今後ヲ戒メテ会見ヲ終ル。
（昭和五年度校長日誌）

唐沢原に新築された校舎と校門

2 つの資料にあるように、同盟休校は取り下げられ、通学道路の整備などを条件としてようやく話はまとまり、昭和 6 年 11 月新校舎の落成式が行われた。このような経過をたどった為に、牛牧への通学路には避難小屋が設けられたり、出原・吉田への新たな通学路として「源太坂」がつくられたりしたのである。

市田小学校の校庭の整地作業写真

3、高森南小にある 4 つの校門

「高森南小学校には、校門が 3 つある。それは、3 つの学校が統合されたので 3 つあり、正門はない。」とよく言われる。確かに、現在、吉田・出原・大島山・上市田・下市田の一部の子どもたちが出入りする北門と下市田の子どもたちが出入りする、校庭にある東門と牛牧や下市田の一部が利用する西門という 3 つの門が使われている。方向的にも明確にわかるので、おそらく 3 つの学校の統合のシンボルとして、3 つの校門が果たした役割は大きいと思われる。

ところが、高森町史にある「市田小学校配置図」には「北入口」などと記入されているだけで校門は見当たらない。しかも、前頁の写真にある門が示されている。この門は現在プールの脇にあり、木々の下で誰からも注目されない存在である。つまり、高森南小学校には校門が 4 つあることになる。

4、山吹村での校舎建設問題

平成 18 年の第一回「時の駅」講座で今は亡き宮下道彦氏が、「学校問題はこりごりに候」―山吹小学校開校の頃―というお話をされている。その資料には次のようなことが記されている。

やすらぎ荘の横から「南信州フルーツライン」を高森北小へ向かった坂道の途中の右手、崖の上に「山吹尋常高等小学校跡」という碑が建てられている。この碑が山吹の学校問題を象徴しているというのである。

明治 22 年 7 月、山吹尋常小学校は独立したが、校舎は泰山神社前にあったものを使っていた。しかし、その位置では村の南部にかたより、北部の児童の通学には不便であるという声が出てきた。そこで学校校舎新築の議案が村議会で話し合われたが、意見は一致しなかった。

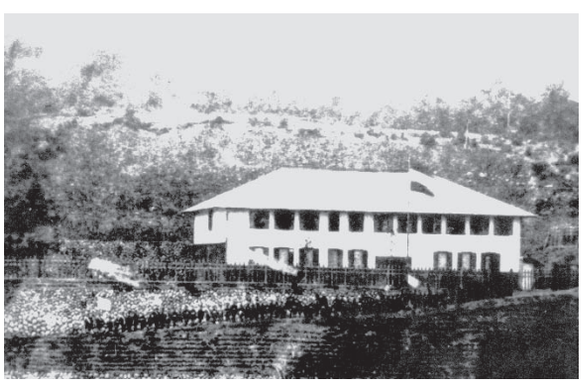
そこで、郡長に判断を仰ぎ、平野候次郎郡長は、「村の境界から距離を測って中央地点を建設場所とする」ことを提案した。その結果、指定されたのは田沢川北側の前ノ原崖端の場所であった。敷地造成の工事が始まったが、場所が狭い急斜面であり、この場所に反対する人々もいたので、工事は容易にはかどらなかった。これに関連する次のような文書も残されている。

本村立学校校舎建築工事ニ付去ル九日夜何者カ敷造工場ニアル器其他ノ器具ヲ破毀セシニヨリ爾来夜番ヲ付シ置候処一昨夜多人数集合シ来リ夜番ヲ脅迫シ置キ、役場近傍ニ差置タル学校建築用材ヲ奪去リ尚又昨日モ多人数集合シ来リ材木菜ヲ奪取センセシモ警官ノ保護ニヨリ幸ニ取戻ス事ヲ得候、前陳ノ如キ次第ニシテ校舎建築工事ニ妨害ヲ与ヘ随テ工事ノ進捗ヲ害シ候右不取敢及御内報候也

廿五年九月十九日

村長代理助役

このような難事を抱えながら明治 26 年には新校舎は完成した。



完成した山吹尋常小学校

しかし、その後も学校問題での南部と北部の対立は続き、当時の南部・山吹上区の代表の一人であり、後に村長になる片桐千里は、書簡の中で、「‥実ニ大コリコリ　学校咄シハ小生真平御免ヲ蒙リ度候‥平和ハ希望ニ堪エザルナリ」と述べている。対立に辟易している一方で、平和的な解決を望んでいる気持ちも表れてている文章である。

その後、一応の決着をみたが、崖下の狭い土

地に建てられた学校であったために、新たな校地を探す必要に迫られた。

明治 36 年 5 月、新たな土地（現在の北小学校の校地）に校舎建築の計画ができ、着工された。この間、心ある人々によって、地道な事態解決に向けての活動がなされ、ようやく明治 37 年 3 月、新しい校舎で子どもたちの元気な声が響くこととなった。

昭和 32 年 7 月、市田村と山吹村が合併し、高森町が発足した。その合併条件として「中学校統合の場合は、旧両村から委員を選任考究の上行うことゝする。」と決められていた。そこで、36 年 2 月より推進委員会が動き出したのであるが、その年に起こった三六水害により一頓挫を余儀なくされた。その後、委員会により小原ヶ丘に用地を決定して新校舎が建設された。

統合に当たっては南北両中学校の先生・生徒の心の解け合いが最も心配された。そのためか、「北中学校の学校備品を、南中学校の生徒がみんなで運んだことを覚えている。」という話も聞かれた。昭和 39 年には南北に分かれていた高森中学校が実質的に統合された。

完成当時の統合高森中学校の全景（昭和39年）

6、終わりに

どこに学校をつくるか、という問題に対して当時の人々が悩み、涙ぐましい努力の結果としての校舎建設が行われ、学校の統合がなされてきたことがわかる。時には同盟休校があり、また、校舎建設をめぐっての争いが事件にまで発展するようなことまで起きていたのである。

一方、そのような事態に対して子どもたちに少しでも良い教育を、という思いからなされたであろう関係者のねばり強い取り組みがあってこそ初めて、この問題が解決されてきたと云える。そのような歴史を経て現在の学校があるということを私たちは知った上で、現在の学校教育の問題を考えていきたいものである。

学校教育と連携

資料館では、学校教育との連携も大事にしています。ふるさと高森の歴史や文化財を、実物や体験を通してより身近に、より分かりやすく具体的に提示することで理解を深められるようにしています。今年も町内の小中学生はもちろん、大鹿小、三穂小、川路小の皆さんも利用してくれました。

市田柿を学ぶ中学生

武陸地1号墳 6年生の現地学習

惣兵衛堤防について学ぶ4年生

石臼をひく3年生

＊＊＊ 平成26年度の記録 ＊＊＊

		利 用 団 体 名 称 と 人 数
4月	町内	高森町史学会及び講演会（34）　天理教奉仕作業（29）　古文書研究会（18） 東京木目込み人形千鶴萌会（13）　資料館調査委員会（11）　脳活塾（11） 美人画教室（９）　資料館運営委員会（８）
	町外	井の国会（35）　兵庫県樫山町老人クラブ（18）
5月	町内	高森南小６年館外授業（124）　下市田一区自治会「親子ふれあい教室」(86) 古文書研究会（17）　松岡氏五百年法要会実行委員会（15）　資料館活用委員会（６） 国際女性デーの集い（５）
	町外	西宮市名塩中之町宮守一行（20）国際女性デーの集い（15） 西宮市立瓦木中学校（４）　藤井寺市立第三中学校（４）　かぶちゃん農園（４）
6月	町内	柿の里短歌フォーラム(101)　南小学校探検クラブ(25)　東京木目込み人形千鶴萌会(17) 古文書研究会（17）　南小学校ボランティア委員会（16）　高森町史学会幹事会（14） 資料館調査委員会（11）　高森町史学会役員会（４）　高森南小学校相談室（４）
	町外	大鹿小学校５・６年生（15）　泉大津市立東陽中学校（８）　枚方市立枚方中学校（３）
7月	町内	高森南小学校３年生４クラス（127）　高森町史学会地域史跡巡り（57） スポ少南野球２回（50）　時の駅講座（34）　高森町教職員（30） 松岡氏五百年記念冊子編集委員会２回(25)　高森中学校統合一期生山吹地区同級会(22) 高森中学校３年生ボランティア活動（22）　古文書研究会館外研修（19） 高森町史学会幹事会（15）　高森南小ボランティア委員会（15） 高森町文化財調査委員会（９）　資料館活用委員会（８）
	町外	県退教（12）
8月	町内	夏休み親子体験教室２日（90）　牛牧老人クラブ（33）　給食センター建設委員会（18） 古文書研究会（14）　一人暮らしの方の町内巡り（12）　スポ少南野球保護者会（４）
	町外	ツクイデイサービス３日間(74)　長野県町村会政務調査会総務文教委員会(22)
9月	町内	時の駅講座（47）　昭和22年市田小学校入学仁組（29）　南小学校歴史探検クラブ(25) 古文書研究会（18）　北部教頭会（16）　松岡氏五百年記念冊子編纂委員会（13） 資料館調査委員会（12）　資料館運営委員会（４）
	町外	燦々会（28）　中央大学ゼミ学生（４）
10月	町内	高森中学校１年生（151）　炭素循環法講演会（42）　花とあそぼ（36）時の駅講座（32） シニア大学（24）　古文書研究会（14）　高森町史学会幹事会（14）　柿渋の会（11） 松岡氏五百年記念冊子編集委員会（６）　水生会（５）　白髭神社総代（４）
	町外	中川村公民館ふるさと巡り（20）　喬木村消費者の会（６）
11月	町内	山田博章氏講演会（84）　南小４年４組（32）　南小ボランティア委員会（20） 出原区ふるさと巡り(17)　古文書研究会(16)　下市田史談会(11)　いるもんで工房(10) 下市田史談会二区役員会（５）　資料館運営委員会（５）　水生会（４）
	町外	かわらんべ講座（20）　藤沢市宮下家家族（５）
12月	町内	高森南小学校3年生4クラス(137)　高森南小4年生3クラス(93)　古文書研究会(18) 松岡氏五百年記念冊子編集委員会（13）　柿すだれ部会（４）
	町外	中津川市加子母公民館（６）

		利　用　団　体　名　称　と　人　数
1月	町内	高森南小３年生４クラス（139）　小正月飾り体験教室（37）　古文書研究会（21） 資料館調査委員会（13）　スポ小南野球保護者会（12）
	町外	御前崎消防団（28）　三穂・川路小学校３年生（24）
2月	町内	古文書特別研究会（43）高森北小3年生（33）　みつば保育園（25）野菜づくり教室（25） 松岡氏五百年記念冊子編集委員会（14）　資料館活用委員会（７）　美人画教室（7） 松岡城址愛護会（４）
3月	町内	スポ少南野球2回（46）下市田保育園（43）　高森北小4年生（31）みつば保育園（26） 野菜作り教室（26）　古文書研究会（22）　松岡氏五百年記念冊子編集委員会（18） 吉田保育園（17）　食生活改善推進協議会（17）　資料館調査委員会（11） 本学神社総代会（8）資料館運営委員会（７）　古文書研究会役員会（７） 役場新入職員研究会（４）
	町外	共生ホームひなたぼっこ2回（21）中川村教育委員会（20）阿南町文化財審議委員会（5）

入館者数：平成 26 年度及び昭和 54 年 11 月の開館以降の累計

★平成 26 年度	7,127 名（町内	6,032 名	町外　1,095 名）
★開館以降の累計	207,401 名（町内	163,650 名	町外 43,751 名）

天理教の皆さんの奉仕活動（4月）

ツクイデイサービスの皆さんの見学（8月）

古文書特別研究会　山内先生（2月）

平成 26 年度　資料寄贈者御芳名

❖民俗資料・その他

（敬称略）

品　　名	数量	氏　　名	住 所
足踏脱穀機	1	岡田　重信	大島山
上市田いろはカルタ原画 後藤晋氏制作	44	後藤　田鶴	上市田
座繰り煮繭器	1	久保田昌幸	下市田
市田村有林　入山券	1	小池　義人	下市田
脇差、刀掛、刀手入道具	各1	尾関　欽治	下市田
煮繭鍋	1	鈴木　信孝	下市田
北原龍太郎画伯作品「飛鳥富本夢幻」習作他	14	北原　貞子	阿南町
展示ケース	2	神稲建設	飯田市
押絵作品「憩」	1	星野ヒロ子	吉田

❖書籍・刊行物（主なもの）

（敬称略）

品　　名	数量	氏　　名	住 所
書籍「平和へのかけはし」	1	塚平　耕一郎	吉田
書籍「ともだち」第4号 還暦記念	1	昭和25年山吹中学校卒業同級会	山吹
書籍「ともだち」第8号 傘寿記念	1	昭和25年山吹中学校卒業同級会	山吹
書籍「わたしたちの阿智村」	1	阿智村教育委員会	阿智村
書籍「山峡に響く平和の鐘」	1	田戸　純市	下市田
書籍「写真集 飯田下伊那の百年」	1	松島　敬子	下市田
書籍「三遠信の航空写真集」	1	松島　敬子	下市田
下市田史談会だより 第29号	1	下市田史談会	下市田

編集後記

関係の皆様のご指導、ご協力により、ここに一年間の活動をまとめた館報第35号をお届けする運びとなりました。心より感謝申し上げます。

当館では今年度、新たに体験教室を行いました。これからも「時の駅」講座や企画展示等の情報発信はもちろん、歴史を体感、体験できる充実した資料館を目指してまいります。よろしくお願いいたします。　（主事：芦部　公一）

ご案内

●『高森町史を読む会』を5月から行う予定でいます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。先ずは「松岡氏」。詳しくは4月の「お知らせ版」をご覧ください。

●古文書研究会を毎月第3木曜日、午後1時30分から開催しております。ご参加ください。